

〈つどう・まなぶ・むすぶ〉で学校とともにある地域づくり
**別府市教育魅力化事業と
中部子ども応援プロジェクトの軌跡**

発表者

日田市立いつま小学校 校長 縄田 早苗
(元別府市社会教育課社会教育主事、社会教育士)

学校数	児童生徒数	学校運営協議会			公立 公民館数	地域学校協働活動 推進委員等の数
		設置年度	各校委員数	各校開催回数		
中学校 7校 小学校 14校	生徒数2,524名 児童数4,689名	平成27～ 28年度	10名以内	6回/年	7館	統括コーディネーター 1名/市 地域学校協働活動推進員 6名/5中学校区

別府市 目指す人間像

自分らしく しなやかに生きる 自立した人、互いを尊重し「ふるさと別府」を愛する人

本市の特徴

○九州の北東部、瀬戸内海に面し、東西南北それぞれ約13～14kmで、面積は約125km²。

○古くから日本を代表する温泉地として国内外から多くの観光客が訪れ、移住者数や交流人口も少なくない。

○人口は約11万2千人で、観光業従事者が多い。

○市内には2大学2短大があり学生が多く、かつ、約3千人の海外学生が学んでいる。また、障がいのある人が健常者とともに働き生活をする「太陽の家」があり、多様性と包摂のまちである。

○平成30年度から、中規模多機能自治組織「ひとまもりまちまもり協議会」が発足し、令和3年度にすべての中学校区に協議会が発足した。全7協議会が活動している。（自治連携課所管）

○自治会の子ども会の多くは解散し、自治会組織に「子ども部」を設置している自治会が増えている。また、自治会をベースにした青少年健全育成協議会が旧小学校区17地区に組織され、活動している。（社会教育課所管）

学校運営協議会と地域学校協働本部の概要

学校運営協議会

○平成27年度から2年間かけ、全ての学校に設置された。

○教育委員会指導のもと、年6回の会議開催が定着している。

○教育委員会は、学校の求めに応じ、各校の会議へ指導主事や社会教育主事を派遣して支援を行っている。

地域学校協働本部

○平成19年度文科省「学校支援を通じた地域連帯形成のための特別調査研究」受託から約17年間、発展・継続して実施されている。

○ほぼ1中学校区に1本部ある。

○公民館運営委員会等をネットワーク会議と位置づけ、公民館職員1名が「協育コーディネーター」として、学校支援や放課後子供教室、地域未来塾等を担当している。

公立公民館の概要

○ほぼ中学校区に1館設置され、直営。

○職員のほとんどは、市役所一般事務になった会計年度任用職員である。

○生涯学習機会の提供として、趣味教養の講座・集会を実施。

○公民館区在住者に関わらず、市民であればどの公民館も使用可。

○職員は学校運営協議会委員ではないが、オブザーバーとして会議に参加している者もいる。

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
大分県別府市	456名	平成27年度	9名	6回	統括コーディネーター 1名 地域学校協働活動推進員 1名

学校教育目標

夢をもち 自ら学び続ける生徒の育成

学校・地域の特徴

- ・創立77年目を迎える。
- ・市内中心部に位置し、校区には3小学校・1県立高等学校がある。
- ・学校周辺は住宅地だが、校区東側は海に面し、別府温泉があり旅館が立ち並ぶ。また、校区東側には南北に走る国道があり、大きなスーパー等が立ち並ぶ。

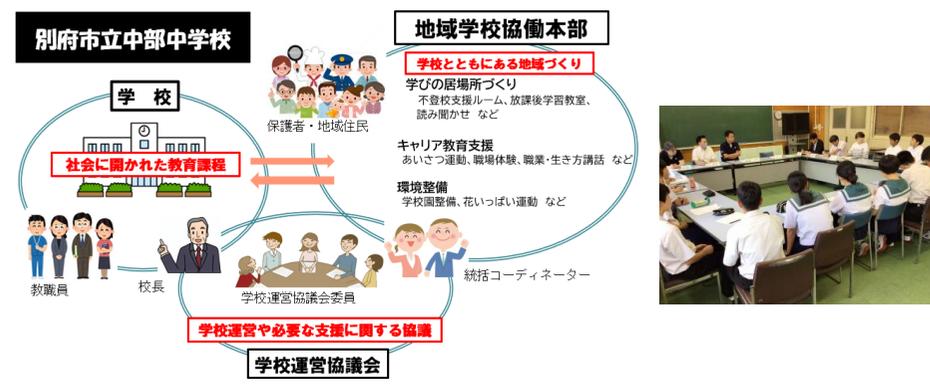


学校運営協議会の概要

- ### 委員の構成(人数)
- 地域学校協働活動推進員(1)
 - 元PTA役員(5)
 - 中部ひとまもりまちまもり協議会長(1)
 - OPTA会長(1)
 - 校長(1)

- ### これまでの主な議題例
- 学校ニーズ調査について
 - 中部子ども応援プロジェクトの取組について
 - 生徒会執行部との対話「生徒と地域住民と一緒に取り組める活動について」

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 教育課程に位置づけた「ドリームスクール」（地域住民が講師となって講話等を行う授業）の実施
- 中学3年生を対象にした地域住民による「放課後学習教室」の開催
- 地域住民が見守り活動を行う「登校支援ルーム」
- 中部ひとまもりまちまもり協議会との協働で行う海岸・河川敷清掃



- 昨年度まで所属していた別府市の取り組みについて報告をします。
- 「一社会教育主事」として、学校運営協議会と地域学校協働活動の
接続のための新規事業立ち上げを担当しました。
- その立ち上げの実際とモデル校区の取組について、社会教育サイ
ドから報告させていただきます。

～「私」について～

2000(H12)年度から 小学校教諭

2009(H21)年度から 大分県教育庁で主任社会教育主事として勤務

2016(H28)年度から 大分大学教職大学院でコミュニティ・スクールについて実践研究

2018(H30/R1)年度から 別府市教育庁で社会教育課・教育政策課社会教育主事、教育政策課
指導主事、学校教育課参事として勤務（2023(R5)年度「社会教育
士」資格取得）

2024(R6)年度から 日田市立いつま小学校校長として勤務

(1) 学校運営協議会（学校教育課）

○市民の認知度は高く、定着している。

▲会議が形式的な学校がある。

▲地域学校協働活動とのつながりが十分ではない。（特に中学校）

(2) 地域学校協働活動（社会教育課）

○平成19年度文科省「学校支援を通じた地域連帯形成のための特別調査研究」受託から約17年間、発展・継続して実施されている。

○公民館職員1名が「協育コーディネーター」として、学校支援や放課後子供教室、地域未来塾等を担当し、小学校とのつながりは定着している。

▲行政主導で、地域への広がりが十分ではない。社会教育を通じた地域主体のコミュニティ形成が十分に図られているとはいえない。

▲学校運営協議会とのつながりが十分ではない。

▲中学校とのつながりはほとんどない。

・類似の活動を行う地域組織との連携が求められる。

中規模多機能 住民自治組織「ひとまもりまちまもり協議会」（自治連携課）

校区（地区）青少年健全育成協議会（社会教育課）

2019 (R1) 年度**1 別府市社会教育委員の会調査研究****2 「コミュニティ・スクール研修会」開催**

奈良市富雄中学校運営協議会副会長で同校区地域教育協議会総合コーディネーターの新谷明美氏を招聘し講演会を実施

教職員や学校運営協議会委員、公民館職員ら130人が参加

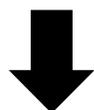


2019 (R1) 年度

3 先進地視察（島根県津和野町・益田市）

<視察者>

教育委員会事務局職員(教育部長・
学校教育課指導主事・教育政策課社会教育主事)
同じ校区の小学校長・
中学校教務主任（地域教育担当教員）



学校と地域、地域と地域をつなぐ

「コーディネーターの重要性」を確認

4 新規モデル事業の構築

➡ 「教育魅力化事業」の立ち上げへ



2020（R2）年度

モデル事業「教育魅力化事業」の実施

- (1) 1 中学校区をモデル校区として認定
- (2) 専門職として「統括コーディネーター」を雇用し、モデル中学校に職員として配置
- (3) 地域学校協働活動推進員を委嘱、配置

学校	地域学校協働推進員
別府市立中部中学校	社会教育委員、元PTA役員
別府市立境川小学校	○PTA会長、元社会教育委員 ○民生委員、放課後学習教室ボランティア
別府市立別府中央小学校	学校支援・放課後学習教室ボランティア

2020（R2）年度

モデル事業「教育魅力化事業」の実施

**（４）地域学校協働活動推進員に学校運営協議会委員を委嘱、
統括コーディネーターは、学校運営協議会担当教員を支援**

**（５）統括コーディネーター・地域学校協働活動推進員・
公民館職員（協育コーディネーター）の学習機会提供**

①国や県が、対面またはオンデマンドで実施する研修会参加や動画視聴を促す。

②連絡会の開催（月1回）

③自主的な学びを支援・・・情報を提供し自主企画で研修会を実施

（６）モデル中学校区での取組に対する支援や助言

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
大分県別府市	456名	平成27年度	9名	6回	統括コーディネーター 1名 地域学校協働活動推進員 1名

学校教育目標

夢をもち 自ら学び続ける生徒の育成

学校・地域の特徴

- ・創立77年目を迎える。
- ・市内中心部に位置し、校区には3小学校・1県立高等学校がある。
- ・学校周辺は住宅地だが、校区東側は海に面し、別府温泉があり旅館が立ち並ぶ。また、校区東側には南北に走る国道があり、大きなスーパー等が立ち並ぶ。

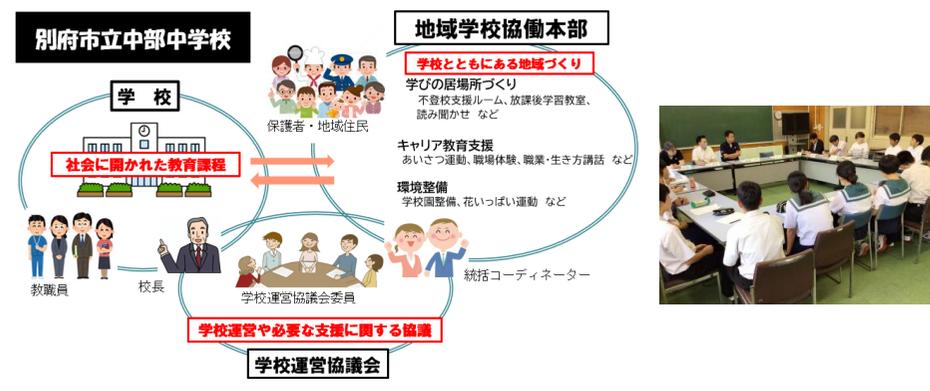


学校運営協議会の概要

- ### 委員の構成(人数)
- 地域学校協働活動推進員(1)
 - 元PTA役員(5)
 - 中部ひとまもりまちまもり協議会長(1)
 - OPTA会長(1)
 - 校長(1)

- ### これまでの主な議題例
- 学校ニーズ調査について
 - 中部子ども応援プロジェクトの取組について
 - 生徒会執行部との対話「生徒と地域住民と一緒に取り組める活動について」

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 教育課程に位置づけた「ドリームスクール」（地域住民が講師となって講話等を行う授業）の実施
- 中学3年生を対象にした地域住民による「放課後学習教室」の開催
- 地域住民が見守り活動を行う「登校支援ルーム」
- 中部ひとまもりまちまもり協議会との協働で行う海岸・河川敷清掃



別府市立中部中学校での取組

細かな取組については、第6回NITS大賞「夢を持とう！！ドリームスクール！！～学校地域保護者協働で夢や希望を育む取組～（大分県別府市立中部中学校）」が配信されています。ぜひご覧ください。



← 検索は
コチラ

創出された 地域学校協働活動

- ドリームスクール
（職業講話・生き方講話）
- 登校支援ルーム
- 放課後学習教室
- 海岸・河川敷清掃 など



夢を持とう！！ドリームスクール！！～学校地域保護者協働で夢や希望を育む取組～（大分県別府市立中部中学校）：第6回NITS大賞

NITS独立行政法人教職員支...
チャンネル登録者数 2.26万人

別府市立中部中学校 「夢をもち 自ら学び続ける生徒の育成」**1 解決したい教育課題**

- ①中1ギャップ…1年生終了時の不登校が多い
- ②自己肯定感が低い…「夢」や「希望」をもてない

2 「学校運営協議会」と、中規模住民自治組織を巻き込んだ「地域学校協働活動」連動までのプロセス

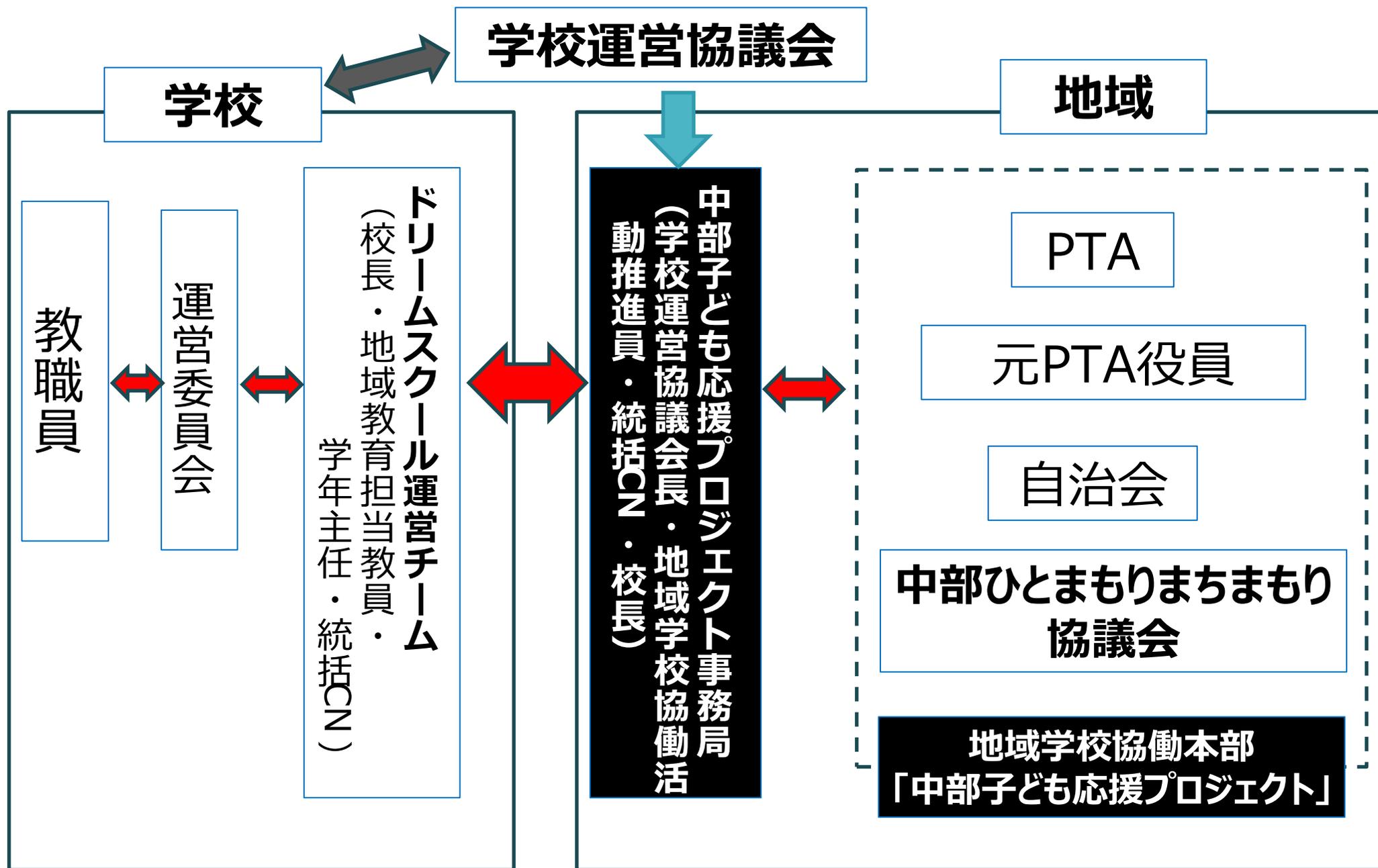
- (1) 2020年度末に「学校ニーズ調査」を実施、結果を第6回学校運営協議会で報告
- (2) 2021年度第1回学校運営協議会で学校課題と学校教育目標を共有
学校運営協議会会長から「学校ニーズに応えるために動こう」との〈提案〉

↑ 地域学校協働本部事務局 立ち上げへ

2 「学校運営協議会」と接続し、中規模住民自治組織を巻き込んだ「地域学校協働本部」実働までのプロセス

- (3) 統括コーディネーターが中部ひとまもりまちまもり協議会役員に就任
- (4) 地域学校協働本部「中部子ども応援プロジェクト」が発足
- (5) 学校における地域学校協働活動「ドリームスクール」等、地域における地域学校協働活動「海岸・河川敷清掃」等が実施
- (6) 「ドリームスクール」を教育課程に位置づける。
- (7) 「ドリームスクール」を中規模多機能住民自治組織「中部ひとまもりまちまもり協議会」との共催で実施（大人も参加）





3 成果・効果

(1) 生徒の変容、課題解決の状況

①中1ギャップ 1年生終了時の不登校生徒が多い

→ **60日以上**の長欠生徒数 **11人(2020年度末)→3人(2021年度末)**

②自己肯定感が低い 夢や希望をもてない

→ **「夢がある」と回答した生徒 80%以上**

「ドリームスクールは夢をもつことに役に立つ」と回答した生徒 90%

③地域住民との関係性がより一層深まった。



3 成果・効果

(2) 地域、住民の変容

- ①保護者と地域住民のつながりが深まった。
(地域行事参加が促進)
- ②住民の生徒理解・学校理解が促進、生徒・教職員とのつながりが深まった。
- ③中部ひとまもりまちまもり協議会の活動が活性化されつつある
- ④高齢者の生きがいづくりに貢献



○中学生の初らしい事に小村の町で
 自分の人生活について色々と思ひか
つきました。
 ○色々と悩みも話してくれ、其の
 考慮事からまた思ひます。
 ○このような機会をわたくしに
ありがたうございます。

(1) 学校運営協議会と地域学校協働活動の連動には、統括コーディネーターや地域学校協働活動推進員らの働きが重要。

そのためには、

彼らをつなぎ学ぶ機会を提供するとともに、彼らの自主的な学びを支え、その活動に伴走する人が必要

(2) **解決したい課題や達成したい目標、実現したい夢を、教職員と地域住民とが共有することからすべては始まる。** 学校運営協議会で共有されたのち、**さらに、学校教職員や生徒、保護者や地域住民にも共有を図っていくことが大切**

- (3) その共有を図っていくためには、それぞれのコミュニケーションをファシリテートする機能が大切
- 学校組織や地域学校協働本部それぞれのコミュニケーションをファシリテートする〈チームの存在〉が、活動を持続可能にし、新たな人を巻き込んで発展させていけるのではないか。

